

＜研究課題＞振り込め詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究 －社会情動的選択性理論の観点からの認知心理学的研究－

研究代表者 秋田県立大学総合科学教育研究センター 教授 渡部諭

共同研究者 青森大学社会学部 教授 渋谷泰秀

【まとめ】

本研究は、社会調査データ分析から、詐欺被害傾向と諸要因との関連性に関して社会情動的選択性理論の枠組みを用いた説明可能性の追求を目的とする。高齢者 332 名と大学生 144 名を対象の調査の結果、どの年齢群においても女性群においてのみ、行動の積極性および失敗に対する不安と詐欺被害傾向との有意な正の相関が観察されたが、高齢女性群では認知機能の低下と共に、詐欺被害に遭う可能性の増大化に結びつくと考えられる。

1. 研究の目的

警察庁のまとめでは、2010 年に起こった振り込め詐欺のうち、特に高齢者がターゲットとなっている詐欺手口はオレオレ詐欺と還付金等詐欺である。オレオレ詐欺では 40 歳代以下の被害者は 0%で、50 歳代以上の女性が被害者の 87%を占めている。また、還付金等詐欺においても、40 歳代以下の被害者が 3%見られるものの 60 歳代と 70 歳代の女性で 61%を占める状況はオレオレ詐欺の状況と酷似している。このような犯罪被害の年齢分布は、犯罪手口と被害者の心理学的特徴に強い関連性があることを示していると思われる。

ところで、従来の高齢者研究においては、高齢者の年齢自体が独立変数として取り上げられることがほとんどであったが、社会情動的選択性理論 (Carstensen, Isaacowitz and Charles, 1999)によれば、高齢者の行動に強く影響する要因は高齢という事実ではなく、自分

の人生に残された時間がどの程度であるのかに関する認識であると考えた。人生に残された時間が少ないと感じている高齢者は現時点での感情を直ちに満足させようとする傾向が強いため Present-oriented goal に基づいた動機づけがなされ、一方人生の残り時間はまだ長いと感じている若年者は認知的な予期に基づいて将来のために現在の時間を使う傾向が強いため Future-oriented goal に基づいて動機づけされるとした。この理論は人生の残り時間に関する認識の相違によってわれわれの行動を説明するもので、高齢者の行動に対するこの理論の説明力の強さが証明されてきた。

本研究の目的は、社会調査で得られたデータ分析から、詐欺被害傾向と諸要因との関連性に関して、相関関係を基に社会情動的選択性理論の枠組みを用いた説明可能性を追求することである。

2. 研究方法と経過

本研究は、QOL、自己効力、詐欺被害傾向などの複数の尺度を含む社会調査票を用いた社会調査研究である。調査対象は 332 名の 60 歳以上の健常成人 (M=69.13, SD=7.2) と 144 名の大学生 (M=22.27, SD=3.37) である (Table 1)。本研究における高齢者は詐欺被害者の年代を考慮して 60 歳以上とした。高齢者の調査対象者は東北地方及び北海道の複数の高齢者団体に研究の趣旨を説明し、自由意思で研究参加を希望する個人に謝礼を支払って自記式調査票に回答を求めた。大学生の調査対象者は東北

地方の A 大学の学生に研究の趣旨を説明し、自由意思で参加を希望した学生に謝礼を支払って自記式調査票に回答を求めた。調査期間は 2011 年 7 月から同年 8 月である。

調査票に含まれていた項目は性別、年齢などのデモグラフィック項目と尺度項目であった。尺度項目としては、16 項目の一般化自己効力尺度（下位尺度として行動の積極性、失敗に対する不安、能力の社会的評価を含む）、25 項目の ST 簡便 QOL 尺度（下位尺度として居住環境、家族関係、収入、友人関係、仕事関係、健康、幸福感を含む）、10 項目の詐欺被害傾向尺度、10 項目の未来展望尺度、4 項目のリスク志向性尺度であった。

Table 1 調査対象者の年齢と性別

Sex	Age group		Total
	Young	Old	
Male	72	120	192
Female	72	212	284
Total	144	332	476

詐欺被害傾向は独立行政法人国民生活センターのホームページ (<http://www.kokusen.go.jp/>) に掲載の「高齢者に多い相談」の中から 10 事例を抽出し作成したシナリオを読んだ後に、自分であればどの程度被害者と同様の対処をしたかについて「確実に同じ」から「確実に異なる」の 6 段階のリッカート型の回答形式の質問項目 10 個を用いて尺度を構築し回答を求めた。

3. 研究の結果

分析結果は詐欺被害傾向、未来展望、一般化自己効力、リスク追求傾向、幸福感、QOL 尺度の 6 尺度の積率相関係数として、高齢者群のデータのみを最終ページにおいて Table 2（高齢男性

群）および Table 3（高齢女性群）として示す。

詐欺被害傾向尺度の信頼性の推計値はクロンバックの α で .86 であった。一般化自己効力は、行動の積極性（4 項目、 $\alpha = .72$ ）、失敗に対する不安（5 項目、 $\alpha = .82$ ）、及び能力の社会的評価（3 項目、 $\alpha = .57$ ）の 3 つの下位尺度で構成される尺度で、本来 16 項目で構成される尺度であるが、尺度分析のプロセスで 4 項目がトリミングされた。未来展望は Carstensen and Lang(1996) が開発した 10 項目の未来展望尺度をバックトランスレーション手法を用いて日本語に訳した尺度を使用した。未来展望は希望的未来展望（Hopeful future time perspective；8 項目、 $\alpha = .91$ ）と限定的未来展望（Limited future time perspective；2 項目、 $\alpha = .61$ ）の 2 尺度で推計した。詐欺犯罪被害傾向と未来展望の希望的未来展望との相関は年齢・性別に関わりなく全てのグループで有意な負の相関が観察された。このような相関の方向性及び統計学的有意性の両方で一貫した相関構造は、未来展望が高いと将来に備えて認知的な意思決定が働くとされているが、認知的な意思決定方略が詐欺犯罪被害傾向の低下に関連している実証的な証拠と捉えられる。更に、限定的未来展望は詐欺犯罪被害傾向と全てのグループで正の相関が観察され、若年男性と高齢女性では有意な相関が見られた。一貫した正の相関は、社会情動的選択性理論によると未来展望が低いと情動的な意思決定が働くとされているが、高齢女性に被害者が多い詐欺犯罪が被害者の情動的な意思決定プロセスの生起を期待したものであるとすれば、社会情動的選択性理論に整合する実証データであるといえる。

以上より、詐欺被害傾向と未来展望の中の希望的未来展望との相関は年齢・性別に関わりなく全てのグループで有意な負の相関が観察された。このような相関の方向性及び統計学的有

意性の両方で一貫した相関構造が観察されたことは、未来展望が高いと将来に備えて認知的な意思決定が働くという解釈が可能であるが、これは詐欺被害傾向の低下に認知的な意思決定方略が関連している実証的な証拠と捉えることができる。

また、高齢者グループにおいてのみ、詐欺被害傾向が幸福感と QOL に有意な負の相関 (-.244 ~ -.385; 全て 1%水準で有意) を示した。これは、高齢者に特有の心理学的特性が介在している事を示唆していると考えられる。

最後に、一般化自己効力の下位尺度である行動の積極性と失敗に対する不安(不安が低い時に尺度値が高くなるように設定)は、どの年齢群においても女性群においてのみ詐欺被害傾向と有意な正の相関 (.205 ~ .298; 全て 1%水準で有意) が見られた。すなわち、積極的な行動をとり、不安が低いほど詐欺被害に遭いやすい傾向があることになる。

4. 今後の課題

詐欺犯罪被害傾向は、高齢者群においてのみ幸福感と QOL に有意な負の相関 (-.244 ~ -.385; 全て 1%水準で有意) を示した。詐欺犯罪被害傾向が高齢者群においてのみ幸福感と QOL に関連性がある事は、高齢者に特有の心理学的特性が媒介している事を示唆していると考えられる。本研究で研究対象とした尺度変数の中で意思決定に直接影響を及ぼす可能性のある尺度は一般化自己効力とリスク志向性である。リスク志向性と詐欺犯罪被害傾向の相関は、高齢男性群においてのみ負の有意な相関が見られたが、年齢群と性別に共通の一貫した相関構造を示さなかった。しかし、一般化自己効力の下位尺度である行動の積極性と失敗に対する不安(不安が低い時に尺度値が高くなるように設定)は年齢と無関係に女性群においてのみ

有意な正の相関 (-.205 ~ -.298; 全て 1%水準で有意) が見られた。男性群における相関係数では、特に失敗に対する不安が低い傾向が見られた (.036 及び .069)。これはオレオレ詐欺と還付金等詐欺において圧倒的に高齢女性群の被害者が多いことに関連すると考えられる。若年女性群では行動の積極性が高く、失敗に対する不安が低い場合であっても、認知機能の低下が問題となる事はないと考えられる。しかし、高齢女性群においては積極的に行動する傾向が高く失敗を恐れない状況は、認知機能の低下と共存する可能性が高く、感情的高揚を増幅させるような詐欺シナリオが提示された場合、認知的意思決定よりも感情的意思決定プロセスが生起される可能性が非常に高くなるのではないかという仮説が考えられる。

5. 研究成果の公表方法

日本心理学会第 76 回大会、日本認知科学会第 29 回大会、日本行動計量学会第 40 回大会において発表を行った、更に日本認知科学会学会誌「認知科学」への投稿準備中である。

参考文献

- Carstensen, L.L., Isaacowitz, D.M., and Charles, S.T. (1999). Taking time seriously: A theory of socioemotional selectivity. *American Psychologist*, 54, 165-181.
- Carstensen, L.L. and Lang, F.R. (1996) *Future Time Perspective Scale*.

Table 2 高齢男性群における尺度変数間の相関係数

Scale	Vulnerability for fraud	Hopeful future	Limited future	Enthusiasm in action	Anxiety for failure	Evaluation of ability	Risk seeking	Happiness	QOL
Vulnerability for fraud	1.000	-.225*	.123	-.043	.153	.069	-.254**	-.385**	-.385**
Hopeful future	-.225*	1.000	-.644**	-.371**	-.163	.061	-.085	.231*	.431**
Limited Future	.123	-.644**	1.000	.286**	.164	.001	.030	-.114	-.258**
Enthusiasm in action	.153	-.371**	.286**	1.000	.291**	-.152	-.007	-.236**	-.453**
Anxiety for failure	.069	-.163	.164	.291**	1.000	.023	.085	-.462**	-.435**
Evaluation of ability	-.043	.061	.001	-.152	.023	1.000	.028	-.077	.220*
Risk seeking	.168	-.085	.030	-.007	.085	.028	1.000	-.074	.010
Happiness	-.254**	.231*	-.114	-.236**	-.462*	-.077	-.074	1.000	.523**
QOL	-.385**	.431**	-.258**	-.453**	-.435*	.220*	.010	.523**	1.000

**Correlation is significant at the 0.01 level (2-tailed).

*Correlation is significant at the 0.05 level (2-tailed).

Table 3 高齢女性群における尺度変数間の相関係数

Scale	Vulnerability for fraud	Hopeful future	Limited future	Enthusiasm in action	Anxiety for failure	Evaluation of ability	Risk seeking	Happiness	QOL
Vulnerability for fraud	1.000	-.159*	.152*	.248**	.205**	-.108	.084	-.244**	-.314**
Hopeful future	-.159*	1.000	-.679**	-.335**	-.347*	.205**	-.045	.329**	.467**
Limited Future	.152*	-.679**	1.000	.346**	.350	-.123	-.029	-.339**	-.442**
Enthusiasm in action	.248**	-.335**	.346**	1.000	.526	-.328	-.005	-.338**	-.412**
Anxiety for failure	.205**	-.347**	.350**	.526**	1.000	-.150	.023	-.483**	-.492**
Evaluation of ability	-.108	.205**	-.123	-.328**	-.150	1.000	.014	.067	.260**
Risk seeking	.084	-.045	-.029	-.005	.023	.014	1.000	.053	.014
Happiness	-.244**	.329**	-.339**	-.338**	-.483	.067	.053	1.000	.660**
QOL	-.314**	.467**	-.442**	-.412**	-.492	.260**	.014	.660**	1.000

**Correlation is significant at the 0.01 level (2-tailed).

*Correlation is significant at the 0.05 level (2-tailed).